

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900441		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホーム やすらぎの家		
所在地	一関市真紫字爪木立43-96		
自己評価作成日	平成21年7月22日	評価結果市町村受理日	平成21年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370900441&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目9番1号
訪問調査日	平成21年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家は明日への行動する充電の場と考えています。そのため、共有空間(リビング・外庭)はゆっくりとくつろげるよう場を創っています。
 活動は家の外へと、とにかく出掛けて楽しんでいます。催事、カラオケ、寿司、畑、散歩、買い物、故郷訪問などと家にいる事は少ないです。
 疲れを癒す入浴は、夕食後も希望に添えるようになっています。
 区民の一員として、行事には出来るだけ参加をして楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの特性に合った個性を大切にされたケア、サービスに心がけている。理念としては、「普通」を大切に「ありのまま」に生活出来るように支援をしている。具体的には利用者の生活歴を参考にしながら、細かい干渉などはせず、思い思いに普通の家庭生活に近づくように配慮され、工夫されている。1例として、入浴時間など希望により夕食後でも対応出来るようにしている。建物施設も前の食堂兼宿泊施設を上手に工夫リフォームし、「温か味」が感じられる雰囲気になっている。24時間鍵をかけないことも特徴的である。(ただし出入口からすこし離れたところにセンサーは取り付けられている)。出来るだけ個室に閉じこもらないように、声がけの工夫などもなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福光園の理念を基にして、地域密着型サービスをふまえた理念を作り、管理者と職員は共有し日々の申し送りまたは、職員会議などで実践につなげています。	毎日のミーティングで理念を唱和する等は、していないが、毎月の職員会議で管理者は必要な資料を提供しながら、理念の主旨の確認を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区民・地域の方々と共に暮らせるよう、職員から地域に入り交流を深めてから、利用者様も交流が出来るように努めています。	地域(民区)が主催する行事、運動会、芸能まつり、一斉清掃などに、積極的に参加して地域との結びつきを強めるように努力している。管理者は副区長、消防団の重要な役を引き受けるなどの姿勢でもその積極性がうかがえる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表者会議に参加して、事業所の事業計画や実績などを報告しています。立地場所が国道に接していることから、生活の様子などは、自然な形で発しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、利用者、介護保険課、区長、民生委員、老人クラブの方々との意見交換を1回/2ヶ月開催し、事業内容の報告や今後のあり方などについて、意見を頂いています。	2ヶ月に1回、3時半から4時半までの1時間、運営推進会議を開催し、「本人のニーズに応える介護でよいのではないか」と言う共通認識に基づき進められている。季節の行事等の提言があれば対応するように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会や両磐ブロックグループホームの定例会などに出席をしていただき、個々や全体のサービスなどについて意見交換をしています。	運営推進会議に出席された一関市の介護保険課の職員から、介護保険制度の改正点などその都度説明をしていただき、理解を深め合っている。情報提供も積極的に行い、指導を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵は夜間以外は掛けていません。鍵を掛ける事の弊害は、職員は認識しており、その対応として、朝は5時30分、夜は19時30分でも外に出たい気持ちを尊重し、一緒に付き添っています。外部・内部研修を通して、スキルアップを行っています。	表玄関は夜間施錠するが、通用玄関は火災時の避難を考え、24時間施錠はしていない。ただし、玄関からやや離れたところにセンサーは取り付けられている。その他、身体拘束と思われる事柄は見当たらない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、尊厳と虐待について機会ある毎に話しあい、ストレスを積み重ねて背負い過ぎないように、コミュニケーションをとっています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市福祉課や社会福祉協議会の方から学んだり、関係資料で、学ぶようにしています。過去に権利擁護について家族と話し合いを行った事もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・運営規定・重要事項説明書などや、事例を用いて説明しています。長期的には法人の特色をいかした援助の説明。利用料の変更がある時は、説明も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者や家族様から意見・要望が表せるような、会議の進め方をしています。面会時に現状の福祉で一般的な話題などで会話をし、そこから得られた情報を反映できるようにしています。	運営推進会議には、利用者も出席されるので、分かり易い言葉を使って貰うようにし、会議はお茶を飲みながら気軽に発言しやすい雰囲気作りに努めている。家族の方もグループホームへの利用体験を試したら、などの提言がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個別の面接があり、その中で意見・提案を聞く機会を設けています。また、職員会議においても職員から運営について意見が出せるようにしています。全体総会には、職員も参加して意見が述べられる機会があります。	年2回の法人全体の職員会議、グループホーム内職員会議とも自由に気軽に発言できる雰囲気の中で行なわれている。施設改善、ケアのあり方などが主な話題である。人事考課作成時には面談、アンケートを行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	成果主義に近い人事効果方法や、希望休暇の全取得、被服費の支援、勤務時間の選択など、整備改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に希望・指示などで、出きるかぎり機会を作っています。資格取得については、本人はもとより、法人からも支援を頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム・両磐グループホーム定例会に参加し、意見交換を行い質の向上に努めています。他法人や法人内の他事業所の職員などの交流を深めています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、管理者が自宅に出向き、本人と会い、世間話を中心に行い、ご本人も会話に入れる内容を提供し、顔を覚えて頂くように努めています。ホーム入居時は、不安・心配にならないよう努め会話づくりを行っています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームへの相談時・自宅への訪問時に、話が出る雰囲気づくりと同調を心がけています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの見学・支援内容を説明し、生活が可能かを見ていただいています。ホームに慣れて頂くため、表情を感じながら、話がけをしています。法人内の事業所の情報も得ながら対応しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員は生活を共に支えようと考えており、わからない部分は、教えたり、教わったりして暮らしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康・通院・理容・外出・介護について、連絡を取り合い、互いの都合を話し合いおこなっています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住んでいた地域での催事に出掛けたり、家族と一緒に行事を計画したり、気軽に遊びに来れるように努めています。	出来るだけ、施設内に閉じこもることのないように、積極的に外出支援をしている。例としては、1ヶ月に1回以上は外泊し、家族と過ごしたりする方、妹さんのところに2泊してきた方、お墓参り、芸能まつりを見たい方等にも施設として外出支援をしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士の席わりを行っています。利用者が互いに部屋に招き、お話しが出来るようにしてあります。利用者同士が互いに支援出来るよう、介助はギリギリまで待っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・特養に移動しても、面会に行ったり、町で家族に合っても職員から声を掛けるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を知り、その情報で出来るものから支援しています。映画、カラオケ、すし屋、買い物、畑、兄弟との過ごす時間などを家族様と相談しながら行っています。	その方の生活歴を活かしたケアプランに基づき、個人重視の支援をするように心がけている。そのメニューは多様である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、本人・家族からの情報で生活歴をの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌の項目に気付きをいれ、記録に残すようにしています。 職員会議の場でも、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価や月一回の職員会議の場や職員の気づきをケアプランに生かしています。	1ヶ月に1回の職員会議、職員との面談、家族からの要望電話、家族の訪問時の面談等から出された事柄を検討し、出来るものから3ヶ月に1回以上のケアプランの見直し、サービス計画書の見直しに活かすようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録項目に気付き設け、記録に残しています。 センター方式を利用して個別の記録に残し計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が色々なニーズに対応出来る質を持つ事が大切と考えています。それには職員が地域に出てコミューターの場を作るように心がけています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店、理容、消防、民生委員、民区などの地域資源を活用し、安全で豊かな生活が送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の掛かりつけ医を主としています。緊急の時は協力医(総合病院、歯科、認知症)の受診が出来るよう支援しています。	利用者はそれぞれ、かかりつけ医を持っている。緊急時は協力医と連携する体制を整えている。通院は原則家族が行なうこととしているが、家族が都合がつかない時は若干の経費を頂き、施設で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態変化を見逃さないよう、バイタルは勿論歩行、表情、声、摂取量に気付き、通院まででは無いと思われるときは母体の看護師に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供し、本人が入院したとき、対応が大きく変化しないようにしています。病状や、退院時期などは先生から情報を得て本人への支援を心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった場合の話し合いを本人、家族と行い、対応に対する方針の共有化を図っています。終末期の支援は考えていませんが、知識の勉強は行っています。	看取りは考えていないが、家族の強い希望があった場合などのことを想定して終末期の介護、看取りについては、機会を捉えて学習を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の看護師や過去の経験を生かし、初期の対処方法に訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災における訓練は行っています。地域がら近隣も少なく応援の協力も難いため、最小限の人員で最大の効果を得られる基本的な考えの指導を行っています。地域の自主防災の組織に入り、避難方法を身につけたいと考えています。	年間2回、災害時を想定して避難訓練を実施している。施設の建っている地質は強固なので、火災を想定した訓練に止まっている。今後は、防災計画を早期に完成させ、地元近隣の方々の協力を頂ける様な体制づくりを急いでいる。	今後、起こりうる多様な災害を想定して綿密な防災計画及び避難誘導計画等を作成し、夜間を含めた訓練等を確実に実行されるよう期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を重んじたお世話を心掛けています。外部・内部研修を通して「お客様の満足」を全員で取り組んでいます。	職員は、利用者本位のケアのあり方を再確認し合い、満足した毎日を過ごせるように支援している。接遇における言葉かけの仕方、例えば、トイレの誘導を「案内」、利用者を「お客様」というなど心遣いが実践されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう、催事、畑、家族の情報、買い物等の情報を事前に伝え生活圏を広がるように支援しています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝にいたるまで、本人にのペースに合わせた生活が出来るように見守り、時には選択できる情報を提供しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わりめに衣類の整理を本人と行い、その後は本人が身だしなみへの選択出来るようにしています。外出用の衣類も家族様に相談し揃えています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんがその日に食べたい料理を尋ね、一緒に食材の買い物に出掛け、一緒に作り一緒に盛り付け。食後は一緒に片付けをしています。希望のときは外食なども行っています。	1週間の献立表は作られてはいるが、利用者から望みの料理の希望が出された時は、出来る範囲でその方と一緒に買い物に出かけ、料理をし、希望に沿えるようにしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じメニューにならないよう献立表で確認し、栄養バランスも考えて提供しています。1日の水分量分かるようにチェック表を用いています。体調も考慮し献立、大きさ、味も変えて提供しています。栄養士にカロリー計算と献立の意見も反映しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自立・介助の利用者全員の清潔保持をしています。その後、夜間は希望の方のみ義歯を預かり洗浄剤で清潔を支援しています。職員は外部・内部研修を受け技術向上に努めています。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄の自立を支援しています。環境上の制約でトイレの使用が不可能な方にはポータブルトイレの支援も行っています。トイレでの失敗をしても分からないような支援をしています。	排泄の失敗があっても、その方の自尊心を傷付けないように配慮している。あらかじめ便器の周りの壁や床にタオルをかけたり、敷いたりして目立たないようにしている。介護度4の方は居室でポータブルトイレを使用している。排泄チェック表も整備されている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす(掃除、買い物、笑う)事を基本に支援しています。飲食では乳製品、繊維質野菜、水分補給。医療的には家族様と相談し予防に取り組んでいます。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には希望重視で行い、声掛けの時は承諾を得て入浴支援をしています。	本人の希望に出来るだけ浴うようにしている。利用者の約半分の方は、夕食後の入浴を希望されている。本人の了解のもと、異性による入浴介助も行なっている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせた安眠や休息が出来るよう、支援しています。朝陽や昼間が明るく休めない利用者には、カーテンの設置などを行っています。場所は本人の希望に合わせています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬しないように対策を講じています。状態変化や症状の記録が必要な時は、ケースに残し、通院時の情報にしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を行う事をスタンスとしています。役割は勿論の事、楽しみも利用者と相談して気分転換が出来るように日々職員は支援しています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	母体のマイクロバスで家族様も同伴で温泉に出掛けたり、近隣の方と三陸の海の幸を食べにでかけています。東下りの見学や、墓参りなどもおこなっています。	年、数回は法人のマイクロバスを利用して、希望する家族と一緒に1日がかりの小旅行に出かけている。また、職員が買い物に出かける時は、声掛けをして出来るだけたくさんの方が輪番に同乗して外出出来るように配慮している。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出での買い物の支払いは自分の財布を持ち、レジで支払う事も支援しています。家族と相談して自分持ちの財布に決まったお金を持っていただいている事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は、基本的には支援しています。手紙やお便りの中に写真なども同封して家族とのかかわりを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は木目調で造られ、窓からは田園、庭園などが見られ、鳥の声、せみの声、草木の匂いがあり太陽の光も入り、季節感のある空間を提供しています。	リビング兼食堂および廊下、居室等は落ち着いた雰囲気になるよう配色が考えられている。カーテンの開閉も自分達で出来るように、高さも加工し工夫され、また、廊下の非常用懐中電灯の電池交換など自分達で出来ることは声がけをしてやってもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人椅子、二人掛け椅子を要所に設置し、居場所を提供しています。食事時の場所は決まっていますが、その他の時間帯では、座る椅子は決めていません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望する利用者には家から馴染みの時計、写真、テレビ、コタツなどを持ち込み、落ち着いて過ごせる工夫をしています。	今まで愛用してきた思い出の詰まったものなどは居室に自由に持ち込むことができ、例えば、家族の写真、手芸品、時計、籐のいすの他、テレビ、コタツなど多様なものが飾られ、配置されていて、安らぐ空間の中で、生活出来るようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共通の空間には手摺や緩やかなスロープをつくり、場所説明の名札を設置し、ドアは引き戸、蛇口は回す方式、電気のスイッチは紐でのオンオフなどで作られ認識の間違いを少なくしています。		